

令和6年度 アーツ前橋事業評価調書

資料 2-(5)

基本事項	事業名	アーツナビゲーター研修							
	(1)研修	時期・日数	5/18、9/14、11/16、2/5、2/15、2/16、3/15 計7日間		講師	齊藤佳代、三輪途道、細川智子		参加者数	のべ73名
	(2)おしゃべりアートデイズ	時期・日数	6/15、7/20、8/17、11/16、12/14、2/15、3/14午前午後、3/15午前午後 計10回		講師			参加者数	のべ61名
	(3)そのほか	時期・日数	11/6、2/5 計2日間		講師			参加者数	のべ47名
	担当者	学芸:辻瑞生 事務:菅原梨恵							
	目的・目標 (総括表)	サポーター活動の一プログラムとして、来館者と共に対話型作品鑑賞を行うボランティアガイド「アーツナビゲーター」を育成するための研修プログラム。美術鑑賞は敷居が高いと思っている人たちが作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらう。							
	キーワード	主体的な美術鑑賞、異なる視点の共有							
他団体との連携 (共催、協力等)	特になし								
該当展覧会	山縣良和展		荒井良二展		リキッドスケープ		はじまりの感覚		
① 投入（支出）・③ 結果（収入）	印刷物等	チラシ(A4)							
		0 部							
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)／(B)	一人当たり コスト	収入内訳			
						参加費	助成金	他	
		予算	-	584,920 円	-		-	-	-
		決算見込	-	310,300 円	-		-	-	-
		差額	-	-274,620 円	-		-	-	-
予算／決算	-	53.0%	-	-	-	-	-		
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要 〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	事業の概要 (転記)	来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。本年度は新規募集を行わず、継続者に向けたフォローアップ研修として実施。						
		・広報戦略 ・新たな試み (転記)	・前年度に続き、前橋市生涯学習課の「それいけ！まえばし出前講座」のメニューとして登録した。 ・美術図工主任研修を当館で行い、対話型鑑賞の体験ではアーツナビゲーターが参加した先生方に対してファシリテーションを行った。 ・一部研修では、ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会と連携し、視覚に障がいのある人と一緒に鑑賞する研修を行った。						
		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]							
		新たな試みの実績	・前橋市生涯学習課の「それいけ！まえばし出前講座」では、リピーター1件、新規1件から申し込みがあり、アーツナビゲーターをのべ6名派遣した。 ・ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会と連携した研修では、他美術館でボランティア経験がある人たちと交流する機会になったが、当館の概要や展示室のつくりなどがわからない人もいたため、鑑賞の研修以前に、それぞれの施設(美術館)のことを学ぶような研修も必要だと感じた。						
③ 結果	数値目標	指標1	目標	おしゃべりAD参加者数:100人		実績	61人		
		指標2	目標	受講継続者数:10人		実績	14人		
		指標3	目標	広報掲載:2回		実績	1回		
③ 結果	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:)							

令和6年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	アーツナビゲーター研修				
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層の ターゲット (転記)	ターゲット: 事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人			
		成果	現在所属してい13名については、数年にわたり本事業に関わっているメンバー7名と研修3年目の6名である。コアは40-70代で幅広い年齢層が<アート好き>という共通点で継続して研修に参加している。自身の体調不良や介護などで休んでいるメンバーもいるが、いつでも戻ってこられる場所として良好な関係を築いている			
		ねらい1 (転記)	アーツナビゲーターのスキルアップと自主的な活動体制、定期的な「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り			
		成果	スキルアップに関しては、各ナビゲーターと外部講師との長年の信頼関係から、ナビゲーターそれぞれの個性・特徴に沿ったアドバイスがされるため、モチベーションを保ちながら無理なくステップアップできる仕組みが構築されている。研修3年目メンバーの全員が3月の展覧会で一般の参加者を前にナビゲーターデビューすることができた。これにより、ナビゲーター不足は解消した。			
		ねらい2 (転記)	-			
		成果	-			
		ねらい3 (転記)	-			
		成果	-			
⑤ 波及効果	個別評価	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒後日記入 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒ アーツナビゲーターの中から、群馬県立館林美術館や高崎市美術館、中之条ビエンナーレなど近隣施設でも対話型鑑賞の活動を行う人ができた。 5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入				
	※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正					
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	課題・改善点	昨年度から展覧会開催中の第3土曜日に定例としておしゃべりアートデイズを開催することができた。展覧会関連イベントと重複しないよう、学芸内で実施の理解と協力、調整をはかる必要があるが、定期的な開催とすることで広報がしやすくなった。 ギャラリー1から有料展示となった場合は、参加者の確保が難しいため、次年度は前橋市が定める「多様な学びの日」(第2土曜日)の実施とし、無料日などに合わせて実施することで、参加者を増やしていきたい。 ナビゲーター13名では学校団体を受け入れる体制ではないので、次年度は中学校美術部を誘致しながら活動の場を広げて、平日対応可能なナビゲーターを確保していきたい。 メンバーが固定化されてきたので、安心して任せられる一方で、新規メンバーを確保したい。そのためには、「おしゃべりアートデイズ」開催に限らず、ラーニングプログラムをどうするか、検討が必要。				
引継ぎ事項 (特記事項)						
コメント・意見	館長 副館長	年間展覧会に合わせ対話型鑑賞を実施することができた。また外部からの派遣依頼により鑑賞体験を実施することができた。学芸員の充足を図る中で、教育普及事業のさらなる充実を検討していく必要がある。				
	運営 評議会					